

(第1号様式)

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット<sup>®</sup>認証申請書

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 横須賀市

住所：神奈川県横須賀市小川町11番地

氏名：市長 上地 克明 ㊞

法人番号：3000020142018

(共同申請者) 長井町漁業協同組合

住所：神奈川県横須賀市長井町5丁目2 4 番 6 号

氏名：代表理事組合長 小澤 紳一郎 ㊞

法人番号：3021005007463

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	横須賀みんなの海プロジェクト～海の幸を守る、育む、つなげる～

プロジェクト区分 (複数選択可)	自然基盤 人工基盤 吸収源の回復、維持、劣化抑制 水産養殖を含む
プロジェクト情報	<p>横須賀市長井町地先は、過去にカジメ場が多く広がり、アワビやサザエなどの磯根資源を育む豊かな海域であった。しかしながら、2012年ころから藻場の衰退が見られ、2015年ごろから磯焼けが顕著に、そして2020年には当該地先の藻場はほとんど消失した。</p> <p>2013年以降、長井町漁業協同組合(以下、「長井町漁協」)では長井町漁協地区食害生物除去活動組織を立ち上げ、磯焼けの原因である食害生物のアイゴやガンガゼの除去、岩盤清掃等の藻場の保全・再生活動に取り組んでいる。駆除した生物は、タコ漁のエサとしたり、近隣の小中学校での理科の実験用として提供するなど、漁業のなかで、また地域との活動として、無駄にしないよう活用している。【水産多面的機能発揮対策事業】</p> <p>また、食害対策に加え、2021年からミニストーン(藻礁ブロック)の設置等による藻場造成活動を行うとともに、食害に対する研究として、藻礁ブロックを覆うカゴの有無別にも観察することで、当該地区に効果的な手法を検討してきた。【漁業活性化推進事業】(※横須賀市独自の補助事業)</p> <p>この他にも、当該地区では、近隣の県立海洋科学高校と連携したアワビの種苗生産や、水産研究・教育機構との連携によるカジメの生育実験などに取り組むなど、長井町漁協を中心として海洋環境問題に積極的な地域である。</p> <p>一方横須賀市では、水産振興の観点から、長井町漁協の上記の活動を支援している。また市内には海洋分野の研究機関や企業などが多く存在する。その特性を生かし、子どもたちが海の仕事を体験できる体験型プログラム「横須賀海洋クラブ」を毎年開催し、海洋教育の推進に積極的に取り組んでいる。</p> <p>地球温暖化対策の観点からは、地球温暖化対策実行計画である「ゼロカーボンシティよこすか 2050 アクションプラン」を 2022 年3月に策定し、2050 年までにカーボンニュートラルを達成することを掲げている。そのなかで、ブルーカーボンの取り組みを二酸化炭素吸収源対策として特に重点的に進める取り組みを「重点プロジェクト」として位置付けている。</p> <p>このプロジェクトを推進するため、市、市内研究機関、市民団体、長井町漁協を含む市内漁協など多様な主体が横須賀市全域における磯焼け対策やブルーカーボンの創出について連携している。これらの取組によって、一部のエリアではカジメ場の回復が確認され、当該地区でのブルーカーボン生態系の再生と保全、ひいては生物多様性の向上や地球温暖化の抑制に貢献している。</p>
クレジット取得理由	横須賀市では、今後も市内全域でのブルーカーボン拡大を目指して、藻場造成やそれに伴うモニタリングを実施することとしている。これらの取り組みを継続して行うためには予算の確保が必要であり、その資金源として「ブルークレジット」の取得を目指している。ブルークレジットによって得られた資金については、上記の横須賀市のブルーカーボンの拡大・維持するための活動資金として活用していく予定である。
クレジット取得後の計画や見通し	水産振興の推進のため、継続的に藻場の保全活動を行い、豊かな海の生態系の回復を図る。その結果として、ブルーカーボン生態系による二酸化炭素の吸収源の拡充、さらには、ゼロカーボンシティの推進への寄与も目指す。
申請対象期間に実施した活動の概要	<p>○モニタリング (担当 : 長井町漁協)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母海藻のモニタリング : 2024年11月25日</li> <li>・母海藻のモニタリング : 2025年7月12日</li> </ul> <p>○食害生物(ウニ) 駆除活動 (担当 : 長井町漁協)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年6月17日</li> <li>・2025年6月24日</li> <li>・2025年6月28日</li> <li>・2025年7月5日</li> <li>・2025年7月8日</li> <li>・2025年7月12日</li> <li>・2025年7月19日</li> </ul>

申請対象期間に実施した活動の概要	○ブルーカーボン啓発活動・追加保全活動（担当：横須賀市） ・2024年10月29日：セルロース溶液によるカジメの種まき ・2025年3月11日：マイクロストーンの設置
プロジェクト実施開始日	2013年度～現在

項目1	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2024年10月01日～2025年09月30日
	③対象とするロープの長さ	【ロープ長】 4370.799357(m) 【ロープ長の算定根拠】 別紙参照：【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_養殖ワカメ 【ロープ長の資料】 【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_養殖ワカメ.pdf.pdf
	④吸収係数	【水揚量】 83.97(t) 【水揚量の算定根拠】 別紙参照：【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_養殖ワカメ 【水揚量に関する資料】 【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_養殖ワカメ.pdf.pdf  【残置量】 0(t) 【残置量の算定根拠】 別紙参照：【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_養殖ワカメ 【残置量に関する資料】 【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_養殖ワカメ.pdf.pdf

項目1	④吸収係数	<p>【含水率】 90(%) 【含水率の算定根拠】 西條恭平（2024）二酸化炭素吸収量向上に向けた海藻養殖手法に関する研究．2023年度，東京海洋大学大学院 海洋科 学技術研究 別紙参照：【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_養殖ワカメ 【含水率に関する資料】 【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_養殖ワカメ.pdf.pdf</p> <p>【P/B比】 1.3 【P/B比の算定根拠】 水産庁（2021， 令和3年4月一部改訂2022年4月）養殖業事業性評価ガイドライン ～藻類養殖～．水産庁 別紙参照：【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定 に関する資料_養殖ワカメ 【P/B比に関する資料】 【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_養殖ワカメ.pdf.pdf</p>
-----	-------	---

項目1	④吸収係数	<p>【炭素含有率】 32(%)</p> <p>【炭素含有率の算定根拠】 水産総合研究センター（2003）三陸沿岸の藻場における炭素吸収量把握の試み（平成14年10月～平成15年3月）別紙参照：【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_養殖ワカメ</p> <p>【炭素含有率に関する資料】 【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_養殖ワカメ.pdf.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472</p> <p>【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&amp;Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照</p> <p>【残存率1に関する資料】 【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_養殖ワカメ.pdf.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0279</p> <p>【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照</p> <p>【残存率2に関する資料】 【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_養殖ワカメ.pdf.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1</p> <p>【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照</p> <p>【生態系全体への変換係数に関する資料】 【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_養殖ワカメ.pdf.pdf</p>
-----	-------	---

項目1	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2-2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 0.496(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 100%</p> <p>(ロープの長さ：4370.799357(m)×評価：100%)</p> <p>【吸収係数の評価】 85%</p> <p>(吸収係数：0.000113677×評価：85%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目1	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【C02吸収量】 0(t-C02)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 別紙参照：【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_養殖ワカメ</p> <p>【資料】 【令和7年度横須賀市】プロジェクト概要.pdf 【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_養殖ワカメ.pdf.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.422(t-C02)



項目2	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】アラメ場 【構成種】カジメ
	②クレジット認証対象期間	2024年10月16日～2025年10月15日
	③対象とする面積	【面積】 2.24767(ha) 【面積の算定根拠】 別紙参照： 【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_天然ワカメ&カジメ 【面積の資料】 【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_天然カジメ.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 4.2 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【単位面積あたりの吸収量の資料】 【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_天然カジメ.pdf

項目2	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式1</p> <p>【算定結果（吸収量）】 9.44(t-CO<sub>2</sub>)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 65%</p> <p>(面積：2.24767(ha)×評価：65%)</p> <p>【吸収係数の評価】 72%</p> <p>(吸収係数：4.2×評価：72%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	<p>【船舶の種類】 船外機船 (11kW / 15PS 程度)</p> <p>【台数】 1隻</p> <p>【稼働時間】 3.00(h)</p> <p>【出力】 11.00(kW)</p> <p>【燃料の種類】 ガソリン</p> <p>【CO<sub>2</sub>排出量】 0.016(t-CO<sub>2</sub>)</p>

項目2	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【C02吸収量】 0(t-C02)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 別紙参照： 【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_天然ワカメ&amp;カジメ 【資料】 【令和7年度横須賀市】C02吸収量算定に関する資料_天然カジメ.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	4.402(t-C02)

合計のクレジット認証対象の吸収量	4.8 t
------------------	-------